

## 推 奨 図 書 に つ い て

推奨番号 165 号

|       |   |   |
|-------|---|---|
| 題     | 名 | 紙の王国のキララ  |
| 作     | 者 | 村井さだゆき  |
| 発     | 行 | 倉次辰男（株式会社 主婦と生活社）   |
| 内     | 容 | <p>主人公は山の村から町へ降り、弟家族と暮らし始めたおばあさん。テレビで戦争のニュースを見てから次々と不思議なことに遭遇し、だんだんと異次元の世界に迷い込む。そして戦時中爆撃機の爆音の下、今は亡くなったお父さんが語り聞かせてくれた「紙の国」の話を思い出す。そこはすべての言葉が文字として記録されていく国。集まってくる意味を持ったたくさんの言葉で人々が平和で楽しく暮らせる国だったが、それを阻もうとする意味管理局という敵対勢力が現れ、言葉をどんどん消していく。すると突然おばあさんは、子どものころ理想だった空想の女の子「キララ」に姿を変え、言葉（文字）を取り戻すために大奮闘が始まる。言葉の持つ意味、ある言葉がなかったら世界はどうなってしまうのか。この物語は良い言葉・悪い言葉それぞれに意味を持っていて、きちんと使い分けることで人間の暮らしが平和で、楽しいものになることを訴えていくという平和への思いがこめられた絵本。</p>       |
| 推     | 奨 | 理由  |
|       |   | <p>本書は、昔、戦争を体験したおばあさんが、その少女時代に理想とした女の子に姿を変え、嫌われた言葉を失って壊れそうになった世界を、勇気・友情・家族の絆を通して得た言葉の力を使って救う冒険ファンタジーであり、「平和へのひと筆 Piece for Peace HIROSHIMA」プロジェクトに世界中から参加した1万5,000人の想いを込めたピースフォント（平和の書体）で書かれている。「平和」や「正義」等が、言葉を制約することなく、「戦争」や「死」をも含むたくさんの言葉が揃った世界において、自分の気持ちや理想を伝えることで作り上げられうることをテーマに、言葉の意味を通じて、人を大切に思う心や平和を願う心、人間としての愛情を豊かに育て青少年の健全育成に有益であるとともに、じっくりと読むことで観察力や思考力を養い、社会生活における良識、責任感及び倫理観念の養成に役立つ作品として認められる。</p> <p>対象：小学校高学年以上</p> |
| 発行年月日 |   | 平成25年4月12日  |